

# 「大震災からの復旧」

## 知られざる地域建設業 の闘いを刻む異色の書

未曾有の大災害から立ち上がったのは自衛隊や警察、自治体だけではな  
い。東日本大震災の被災地には大量のがれきを除去し、道路・橋梁・港湾の復旧を進めるために力を尽くした地元の建設業者たちがいた。そして被災

地以外からの建設業者の支援の輪が広がった。そうした知られざる地域建設業の闘いが1冊の本に凝縮された。このほど「ぎょうせい」から出版された「大震災からの復旧Ⅱ写真Ⅱだ。復旧初動時に地域の建設業者がどう動いたのか、機能しない自治体もある中でのように連携したのかなど一般市民には知られざる活動を歴史の証言として刻む。米田雅子慶應義塾大学特認教授と「地方建設記者の会」の編著。

内容は①地域建設業の現場からの証言②支援に動いた地域建設業ネットワーク③建設復旧を歴史の教訓に刻む④の3部構成。地域建設業の現場からの証言では、「原発危機

機、津波被災と戦う福島県建設業」と題して福島建設工業新聞社の関根正稔相双支局長が、相双地方の現状と必死に地域を守る地元建設業界の姿を中心に取材し、ドキュメンタリーに書き下ろした。

「支援に動いた地域建設業ネットワーク」では北海道、横浜建設業協会や日本JIC建設部会などの行動を紹介。「歴史の教訓に刻む」では谷口博昭芝浦工大教授や目黒公郎東大教授、和田章日本建築学会会長ら有識者が所見を記している。

A5判203頁、税込2000円。一般書店でも取り扱う。

### 「ぎょうせい」が出版

